



# 鹿児島 医療センター



[心臓病・脳卒中・がん専門施設]

理念 良質の医療を病む人の立場に立って  
提供し国民の信頼に応える病院を  
目指します

発行：独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター  
〒892-0853 鹿児島県鹿児島市城山町8-1  
TEL 099・223・1151  
H P <https://kagomc.hosp.go.jp>

## 2026 新年のご挨拶

鹿児島医療センター  
院長

西尾 善彦

新年明けましておめでとうございます。平素より鹿児島医療センターの運営に対し、地域の皆様ならびに関係各位から多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、コロナ感染症も落ち着いた昨今、日本の医療界は、病院の赤字という新たな問題に直面しています。大学病院や急性期医療を担ってきた病院の多くが赤字に苦しむ事態は医療の安定的な提供に支障をきたす大きな社会問題だと思えます。こういった事態に陥った原因は、円安、物価高、賃金上昇、消費税問題等、様々な要因があるのですが、根本的には日本社会がかつて経験したことのない少子高齢化や人口減少といった社会構造の変化に直面している結果なのではないかと考えています。こうした変化に対応するため、医療供給体制を迅速かつ柔軟に見直すことが求められています。社会の変化に対応を迫られているのは医療分野だけではありません。戦後の日本の社会制度は成熟期を過ぎ、急速に老化を始め、このままでは日本の弱体化が進むのではないかと懸念もあります。

しかしながら、昨年には明るい話題も多くありました。大谷翔平選手をはじめ、日本人メジャーリーガーの大活躍、サッカー日本代表がブラジル代表に初勝利、2人の日本人がノーベル医学生理学賞と化学賞を受賞するなど、日本人の底力を見せられた一年でもありました。また、史上初の女性首相も誕生し、日本社会に変化や革新の息吹を感じられた年でもありました。新年を迎え、今こそ我々が元気と知恵を出して、日本と鹿児島がより安全で健全な、住みやすい社会になるよう頑張りたいと改めて感じています。

当センターでは本年も職員一同、地域医療の中核としての責任を果たすべく、変化する社会の要請に応えながら、皆様に安心していただける「質の高い医療提供」を目指して努力してまいります。何卒、今後も変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。



糖尿病・内分泌内科チーム

# 心とからだ、そして社会に寄り添う 糖尿病・内分泌医療を

糖尿病・内分泌内科部長 郡山 暢之

当院糖尿病・内分泌内科は、日本糖尿病学会教育認定施設(県内6施設)、日本内分泌学会認定教育施設(県内2施設)、日本甲状腺学会認定専門医施設(県内基幹病院では唯一)として、糖尿病および内分泌疾患全般の専門的診療を行っています。現在、専門医5名を中心に、糖尿病看護認定看護師・療養指導士を含む多職種チームで、患者一人ひとりの背景やライフステージに合わせた“オーダーメイド医療”を実践しています。今年度、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科、糖尿病・内分泌内科の教授を務められた西尾善彦先生が院長兼糖尿病・内分泌内科医師として赴任され、益々パワーアップしています。

## 糖尿病診療の最新技術と包括支援

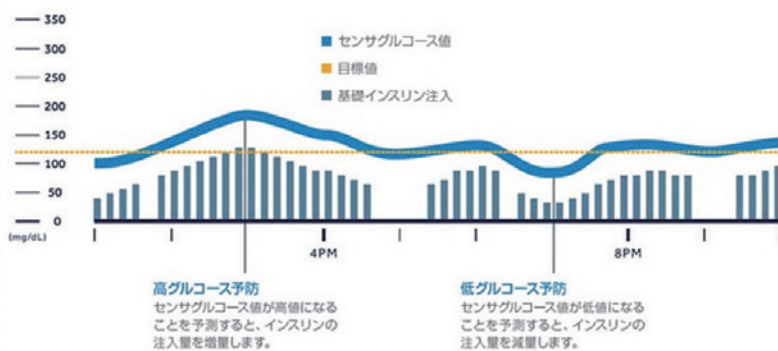
糖尿病診療では、血糖・HbA1cなど主要検査の当日結果報告体制を整え、持続血糖測定(リブレ2、デクスコムG7)やAID療法(自動インスリン注入システム)など、最新技術を積極的に導入。糖尿病看護認定看護師による生活支援に重点を置いた外来療養相談やフットケア外来も好評です。足の病変予防から心理的サポートまでを一体的に行い、“あきらめない支援”を合言葉に重症化予防に取り組んでいます。

教育入院では、患者の「気づき」と「行動変容」を重視。糖尿病療養指導カードシステムを用い、個々に最適なプランを提案します。7日・14日コースのほか、腎症患者向けの専用プログラムも実施しています。

## 内分泌疾患への先進治療と肥満症外来

内分泌疾患では、バセドウ病・橋本病などの甲状腺疾患を中心に、副腎・下垂体疾患、二次性高血圧など幅広く対応。甲状腺エコー、負荷試験、ホルモン補充療法などの実施体制を整備しています。さらに、甲状腺眼症に対するステロイドパルス療法や放射線治療に加え、抗IGF-1受容体抗体薬テプロツムマブ(テッピーザ)による先進治療やバセドウ病に対するアイソトープ治療も開始しました。

## AID 療法

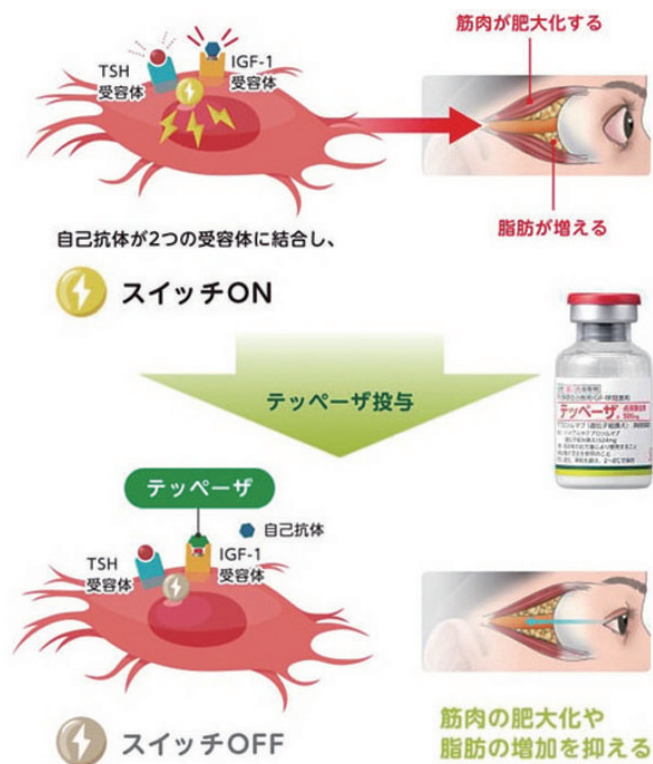


インスリンポンプがリアルタイム CGM を併用して基礎インスリンを自動調整するテクノロジーを用いる。リアルタイム CGM が測定した血糖値のに基づき、システムが状態に合わせて時間毎の基礎インスリンの量を自動調整する。

また、肥満症外来(毎週金曜午後)は、医学的根拠に基づく減量支援を実施。肥満を“生活習慣の結果”ではなく“治療すべき疾患”として捉え、生活背景・心理面に配慮した継続支援を行っています。

当科は「患者と共に歩む」姿勢を大切に、心身両面からの包括的支援を続けています。これからも、地域の皆さまとともに“未来を変える糖尿病・内分泌医療”を実践してまいります。

## テッピーザの作用機序



当院の手術室では年間3000件以上の手術が行われ、そのうち麻酔科管理の手術件数はここ10年あまり2000件前後で推移しています。

### 心臓・血管手術の実績と低侵襲治療の進展

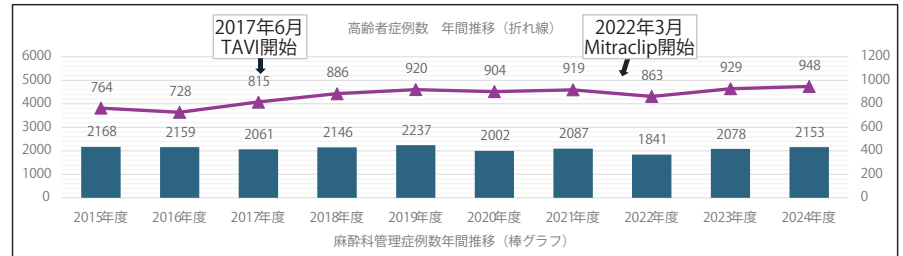
当センターは心臓・血管手術の手術件数が多いことが特徴であり、昨年度は542件と麻酔科管理症例数の1/4を占めます。開心術は県内一多く、麻酔科としても心臓血管麻酔専門医1人を有する認定施設となっています。TAVI(経カテーテル的大動脈弁置換術)は年間約150件、加えて重症僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療: Mitra Clip®(経皮的僧帽弁接合不全修復術)は年間20~25件のペースです。さらに2025年1月に左心耳閉鎖デバイス(WATCHMAN)を用いた左心耳閉鎖術も予定されています。心疾患に対する低侵襲なカテーテル手術は日進月歩であり、麻酔科も知識のブラッシュアップが求められる分野の1つです。

### 高齢者症例の麻酔管理

これらのカテーテル手術は75歳以上が主な対象年齢ということもあり、70歳以上の高

2024年度の麻酔科管理症例：手術部位別（2024年4月1日～2025年3月31日）

脳神経 脳血管	胸腔 縦隔	心臓 血管	胸腔 腹部	上腹部 内臓	下腹部 内臓	頭頸部 咽喉頭	胸壁 腹壁 会陰	脊椎	股関節 四肢	合計
51	7	542	2	54	464	774	221	3	35	2153



齢者症例数は900件以上となっています。高齢者では麻酔中の血圧低下による術後の各臓器への影響が示唆されており、麻酔導入時の血圧低下を見越した昇圧薬の予防的投与(単回/持続投与)が行われるようになっていきました。また、2020年8月に発売された超短時間作用型ベンゾジアゼピン系のアネレム(成分名:レミゾラム)は持続静注することで完全静脈麻酔の維持薬として使用できます。循環抑制が少ないため高齢者の全身麻酔に適しており、覚醒時、フルマニゼルで拮抗できるところもメリットです。

### 安全かつ円滑な手術室運営を目指して

現在、麻酔科は常勤スタッフ7人、うち5人でオンコールを担当しています。深夜の緊急手術を2人で対応した場合、翌日の手術室運営はかなり厳しくなる状況です。そんな中、手術室看護師から麻酔領域の特定看護師が1人誕生しました。さらに1人が研修中で、これから頼りになる存在になりそうです。麻酔科とともに特定看護師、手術室スタッフ一同、安全かつ円滑な手術室運営に努めますので、今後ともよろしく申し上げます。

# 診療科紹介 婦人科

当科は2014年に産科の診療を終了し、以降は婦人科の良性・悪性腫瘍疾患の手術・化学療法や子宮筋腫・子宮内膜症・骨盤臓器脱・月経不順・更年期症候群をはじめとした女性ヘルスケア疾患の外来診療を行っております。現在、鹿児島大学病院産婦人科医局の関連病院として4名が在籍しております。

今回は当院で診療実績の多い子宮体癌とCIN(子宮頸部上皮内腫瘍)について紹介します。

### 子宮体癌について

現在、婦人科がんで一番多い疾患です。2018年に再発リスクが低い初期癌に限ってロボット手術が保険適応となり、鹿児島大学病院で早々に導入が始まりました。当院にはまだ手術用ロボットが導入されていないので、対象患者様で希望があれば大学病院へ紹介し、連携しながら加療を行っております。2022年以降だけで約40名がこれに該当します。当院では年間約45名の加療を行っております。

子宮体癌は月経と異なる性器出血を認めることが多いですが、婦人科診察への抵抗感から受診が遅れ、進行癌で発見される方も多いです。性器出血を疑う場合(パッドに血が付く、血尿がある、閉経後に再び生理が来たなど)は是非、ご相談ください。

### CINについて

日本では年間11,000名が新たに子宮頸癌と診断され、約3,000名が死亡しています。CINは子宮頸癌の前駆病変であり、当院ではレーザー蒸散術、円錐切除術を年間100件ほど行っております。HPVワクチン接種による予防と定期的な子宮がん検診が非常に有用です。CINの段階で発見すれば妊娠性温存や低侵襲手術で完治が期待できます。

2022年からHPVワクチンの積極的勧奨が再開され、9価ワクチンも公費対象となりました。性交渉前の12~16歳での定期接種が最も効果的ですが、性交歴があっても一定の効果が期待できます。自費での任意接種は年齢制限なく男女とも可能です。オーストラリアでは2007年から女子への接種を開始し、2013年



以降は男女ともに定期接種を実施、今後10年で子宮頸癌はほぼ撲滅するといわれています。当科でも接種可能(予約制)です。

最後に、2024年11月~2025年10月は369件の開腹・腹腔鏡・経膈手術、47件の救急搬送受け入れを行いました。ひとえに地域の先生方からの迅速な紹介の賜物であり、誠にありがとうございます。これからも地域に根差した診療を心がけてまいりますので、何卒よろしく申し上げます。

放射線部門では、一般の診察室とは異なる専用の検査室で放射線を安全に利用し、身体の内部を画像として可視化しています。19名の診療放射線技師が、患者さんに安心して検査を受けていただけるよう、日々努力を重ねています。

当部門では、骨の健康状態や体組成の評価を目的として、Dual-energy X-ray Absorptiometry (DXA) 法による骨密度測定、CT検査による脂肪測定を実施しています。これらの検査は、骨粗しょう症や肥満症、生活習慣病の診断・管理において重要な役割を果たしており、精度の高い画像診断技術を活かして、地域の皆さまの健康維持と疾病予防に貢献しています。

### 骨密度測定 (DXA法) とは？

骨密度測定は、2種類の異なるエネルギーのX線を用いて、非侵襲的かつ高精度に骨密度を測定する検査です。特に腰椎や大腿骨など、骨折リスクの高い部位を中心に評価を行い、骨粗しょう症の診断に欠かせない重要な指標を得ることができます。

DXA法は放射線量が非常に少なく、短時間で検査が完了するため、患者さんへの負担が少ないのも大きな特徴です。骨密度の低下は骨折リスクの増加につながるため、早期発見・予防の観点から定期的な測定が推奨されています。定期的に骨密度をチェックし、「いつのまにか骨折」を防ぎましょう。

### 脂肪測定 (CTによる体脂肪分布解析) とは？

脂肪測定は、体内の脂肪分布を詳細に解析できる検査です。体格指数 (BMI) では把握しきれない内臓脂肪の蓄積状態を高精度で評価できる点が大きな利点です。

当部門では専用のCT撮影プロトコルと画像解析ソフトを用い、内臓脂肪と皮下脂肪を分離して定量的に評価します。内臓脂肪の過剰な蓄積は、メタボリックシンドローム、糖尿病、心血管疾患などのリスクを高めることが知

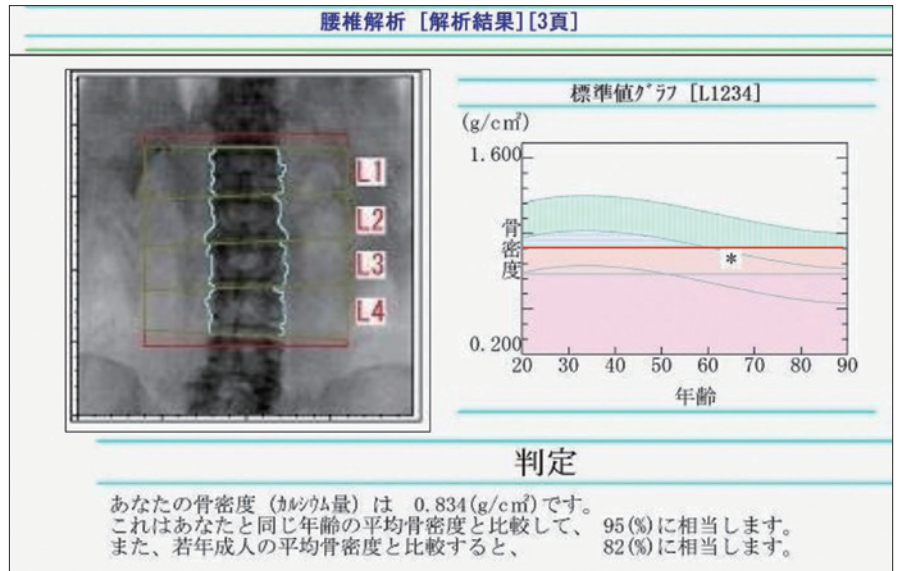


図1 腰椎の骨密度測定の解析結果  
骨折するリスクの高い腰椎の解析結果。測定結果は高精度で信頼性が高いため、経時的な変化や治療効果の評価に適しています。

られており、これらの評価結果は生活習慣病の予防や治療の指標として重要です。

### 安心して受けられる検査環境

鹿児島医療センター放射線部門では、診療放射線技師が丁寧に対応し、安心して検査を受けていただける環境を整えています。骨密

度測定と脂肪測定を組み合わせることで、骨と体脂肪の両面から健康状態を総合的に把握し、効果的な健康管理を支援します。

検査に関するご質問やご不明点がありましたら、どうぞお気軽に放射線部門までお問い合わせください。

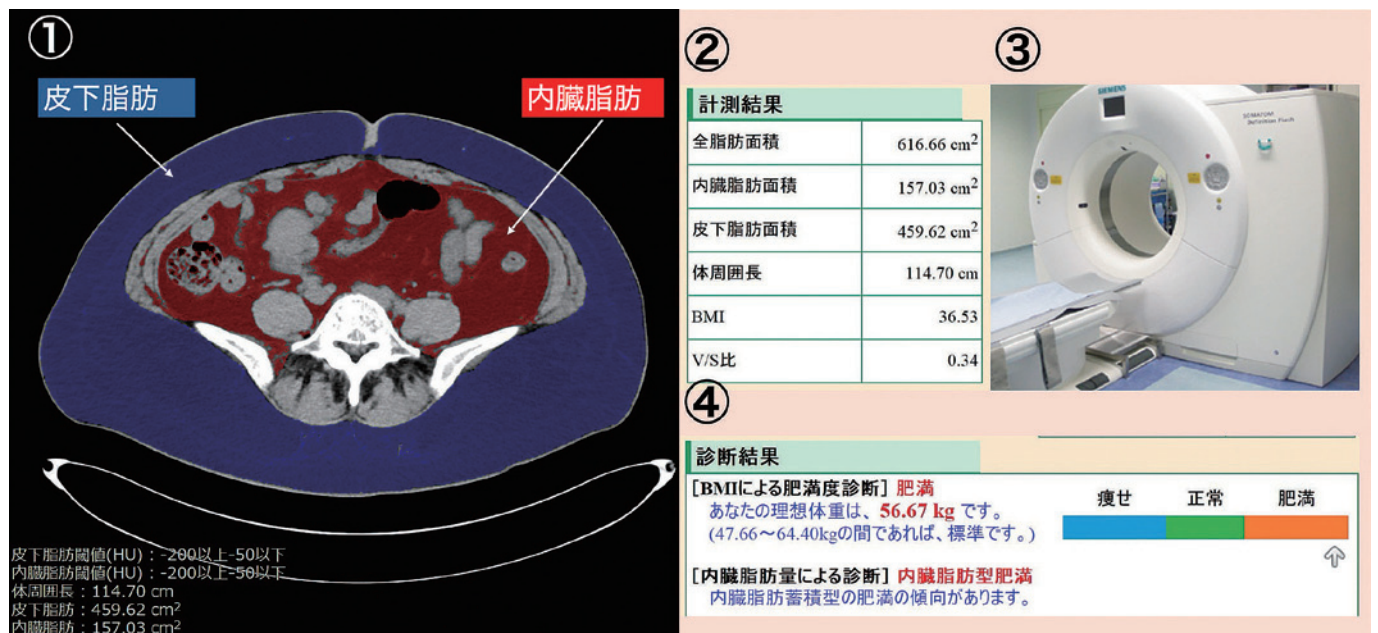


図2 脂肪測定CT検査画像とBMI肥満度診断結果 脂肪測定CT検査では、内臓脂肪と皮下脂肪の画像を基に、それぞれの具体的な脂肪面積、BMI (Body Mass Index) の数値から脂肪のつき方と状態を判定します。  
①皮下脂肪と内臓脂肪のCT画像 ②CT画像を基に計測した結果 ③診断に使用するCT装置 ④診断結果

医療の進歩により、従来は改善が難しい、あるいは救命が不可能とされた疾患に対しても治療の選択肢が広がり、多くの患者さまを救える時代となりました。癌や感染症のみならず、突然発症する心筋梗塞、大動脈解離、脳梗塞といった重篤な疾患においても、迅速な医療介入が救命率向上に直結します。

当院は、これらの心血管・脳血管疾患に対応可能な三次救急施設として、ホットラインを駆使し、消防や近隣医療機関と緊密に連携した体制を整えています。自宅や職場で発症した疑い症例についても積極的に受け入れ、救急科が初期診断を迅速に行い、各科と連動して専門治療へつなぐことで、地域の救急医療を支えています。

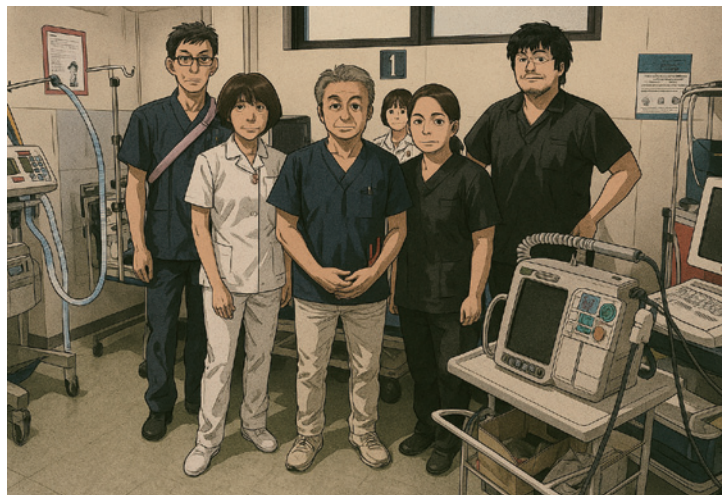
年間の救急車搬入は2024年度で約2,500台にのぼり、そのうち心筋梗塞は約194例、大動脈解離は約62例と、循環器救急の比率が

非常に高いことが特徴です。さらにドクターカーやドクターヘリによる搬送患者も受け入れており、広域での重症患者対応にも貢献しています。

当院には20名の循環器内科医と7名の心臓血管外科医が在籍し、循環器救急への対応力は県内でも屈指です。近年ではECMOやIMPELLAなどの循環補助装置を活用した重症心不全チームも発足し、救急科と連携したスムーズな受け入れ体制を構築しています。これらの強力な専門チームの存在は、鹿児島県における循環器三次救急医療の中心的役割を果たす基盤と

なっています。

今後も、一般救急ならびに循環器三次救急にも引き続き一層貢献できるように、職員一同研鑽を重ね、安心・安全で高度な救急医療を提供し続けてまいります。



## 命を支える最前線 — 補助人工心臓(LVAD)管理 —

### 臨床工学技士部門の取り組み

臨床工学技士部門では、人工呼吸器や血液浄化装置など、生命維持に欠かせない医療機器の安全な運用と保守管理を行っています。その中でも特に高度な専門知識と技術を要する業務が、重症心不全患者さんに装着される補助人工心臓(LVAD: Left Ventricular Assist Device)の管理です。当院は2024年に補助人工心臓管理施設として認定を受け、現在、

- HeartMate 3(HM3): 3名
- HVAD: 1名
- EVAHEART: 1名

の計5名の患者さんが治療を継続されています。LVADは、左心室のポンプ機能を補助して全身に血液を送り出す装置であり、心臓移植までの橋渡し(ブリッジ)や心機能回復を目的として使用されます。



### 地域で受けられる安心の治療体制

これまで、LVAD装着後の管理は主に九州大学病院でのみ実施されており、患者さんご家族は毎月福岡まで通院する必要がありました。交通費や宿泊費などの経済的負担に加え、長距離移動に伴う身体的・精神的負担、さらにはケアギバー(介護者)の時間的な制約など、多くの課題がありました。そのため、治療を継続するために福岡近郊へ転居せざるを得ないケースもありました。

しかし、当院がLVAD管理施設として認定されたことで、鹿児島市および周辺地域にお住まいの患者さんが、地元で継続的な管理を受けられる体制が整いました。これにより、患者さんご家族の通院・生活の負担が大幅に軽減され、安心して地域での生活を送ることができるようになっています。

### 安全管理とチーム医療の強化

当院では手術を受けた患者さんに対し、入院時の装置管理や外来での定期点検を中心に対応しています。臨床工学技士は、装置作動確認・パラメータ監視、異常アラーム対応、患者さんご家族への機器操作指導などを通じて、安全で安定した装置運用を支えています。アラーム発生時やトラブルが疑われる際には、九州大学病院と迅速に情報共有し、連携して対応しています。また、在宅管理においても、装置の衛生管理やバッテリー交換、トラブル発生時の初期対応など、安心して在宅生活を送るための支援を行っています。

さらに、循環器内科・看護部・リハビリ部門と協力し、LVADチームカンファレンスを定期的に開催し、装置状態や生活状況を多職種で共有し、地域での安全な治療継続を支えています。

今後も、LVAD装着患者さんが鹿児島の地で安心して生活を続けられるよう、技術研鑽とチーム医療のさらなる強化に努め、「確かな技術で命を支える」臨床工学技士であり続けたいと思います。

2025年10月4日、鹿児島医療センターでは第12回がん市民公開講座『酒好きだからこそ知ってほしい』頭頸部・食道・肝臓がんの診断と治療法を、鹿児島県医師会館4階大ホールにて開催し、200名を超える市民の皆さまにご参加いただきました。鹿児島は焼酎を中心とした飲酒文化が根強く、全国的にもアルコール消費量が多い地域であることから、今回のテーマは当センターで取り扱っている「がん」の中でも、特に飲酒習慣と関連の深い頭頸部・食道・肝臓がんを取り上げ、最新の診断と治療について広く知っていただくことを目的と

して設定しました。

西尾善彦院長の開会の挨拶に続いて、私が「アルコールと健康の基本知識」について講演し、西元謙吾耳鼻咽喉科部長が「頭頸部がんの診断と治療」、福森光消化器内科医長が「食道がんの診断と治療」、櫻井一宏消化器内科主任部長が「肝臓がんの診断と治療」についてそれぞれ講演しました。診断から治療まで充実した内容となり、全体で30分ほど時間を超過してしまいましたが、参加者の皆さまには最後まで熱心にご聴講いただきました。最後に松崎勉副院長より閉会の挨拶があり、約2時間半の公開講座を終了しました。なお、事前に多くのご質問をお寄せいただき、回答を準備しておりましたが、当日は時間の都合上、全てにお答えできなかったことを、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

今回の講座を通じて、飲酒習慣に伴う健康リスクや適正飲酒についての理解が深まり、日々の生活を見直すきっかけとなれば幸いです。



また、当院のがん診療に関する取り組みについて知っていただくことで、いざというときに鹿児島医療センターを思い出していただける存在になればと願っております。今後も地域の皆さまの健康づくりに役立つ情報発信の場として、継続的に講座を企画してまいります。ご参加いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。



## 新任医師のご紹介

### TOPIC 4

血液内科

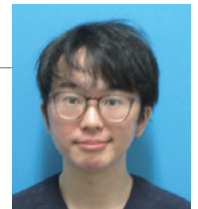
福德 聡



●2025年11月より血液内科に赴任しました福德と申します。白血球、赤血球、血小板という血球の異常やリンパ節の腫れに対して白血病、悪性リンパ腫等ないか診断・治療を行う診療科になります。私事ではございますが10月に待望の第2子が生まれ慌ただしい毎日を送っております。公私ともに変化があり慣れるまで大変ですが仕事と家庭と両立できるよう精進いたしますのでよろしくお願いいたします。

婦人科

磯道 拓人



●2025年12月より婦人科へ赴任いたしました磯道拓人と申します。鹿児島医療センターでは初期研修の際に4か月間研修させていただき、様々なことを学ばせていただきました。赴任してからすぐに皆様に優しく接していただき、温かい職場であることを改めて実感しております。まだまだ未熟なところも多く、スタッフの皆様や先生方にはご迷惑をおかけするかと思いますが、日々研鑽し、患者様へより良い医療を提供できるよう努めてまいりますので、何卒よろしくお祈り申し上げます。

### 患者さんのご紹介について

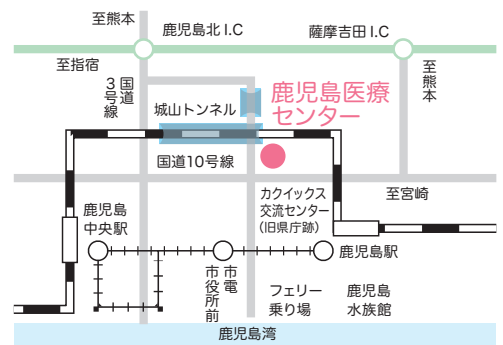
**STEP ①** 予約センター(専用TEL:0120-680-704)へご連絡ください。患者さま氏名・生年月日・ご連絡先・希望診療科をお尋ねいたします。

**STEP ②** 希望医・希望日時に合わせて紹介先診療科の新患空予約枠をお取り下さい。

**STEP ③** 後程、情報提供書のFAX(専用FAX:0120-334-476)をお送り下さい。

※ただし、一部の診療科(血液内科、不整脈治療科、眼科)は除きます。※検査などの関係で、予約日の変更依頼を当院から直接患者様へご連絡する場合がありますこと、内容によって院内の他診療科へ予約変更させていただく場合がありますことをご了承ください。 ※緊急性がある場合には、各診療科医師へ直接お電話ください。

予約センター 専用 TEL 0120・680・704 専用 FAX 0120・334・476  
受付時間:月~金9:00~17:00(祝日・12月29日~1月3日を除く)



独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号 TEL:099(223)1151・FAX:099(226)9246

ホームページ <https://kagomc.hosp.go.jp>

